

# 一般質問



行政改革への  
決意はいかに  
石山 正志

地方分権推進計画を踏まえた関係法律改正によって、条例委任を含めた、自治体の自由度拡大が図られるが、これによって自治体の責任が大きくなることを自覚しなければならぬ。行財政改革もその観点で進める必要があるが、実施プランには実施時期を明示していない検討だけの無責任なプランもある。また、職員提案の目的を変更し提出しやすくすることは良いが、管理者がテーマを付与するなど、市役所全体の成果アップに決意を持った取り組みが必要だと迫った。



公共事業の  
早期発注を  
上村 幸雄

質 公共事業の冬がれなどのときは直ちに対策を打つようであるが、今後来年度に向けた早期発注・設計・工事積算など、すぐに対応できるストックを考えてはどうか。

答 来年度に向けて考えられる事業設計やコンサルタント、工事積算などを、スピード感を持って行うことが必要であると考えます。現在対応できるストックがないので、来年度の早期発注を考慮に入れながら、その準備を行っていききたいと考えています。



登別観光誘客・  
中小企業支援について  
工藤 健二雄

これまでの誘客効果や今後の中小企業支援について質問。登別温泉は温泉宿ができて以降、入浴効果が広く口コミから来泉につながり、現在のパンフレットやインターネットを利用した誘客となっている。飲泉や温泉の効能に特化した行政支援はできないのか。また「おにたま商品券」の成果と課題、さらには登別ブランドの推進や販売の支援策、地域地場産品の地産地消、ご当地グルメの推進、空き店舗対策などが市が行うオンラインワンの行政支援策について質問した。

## 補正予算審査

辻 弘之

福祉のまちづくり条例策定経費に関して、幅広い意見協議の場の設定について確認するとともに、安心生活創造事業や買物支援事業など、すでに政策展開されている地域福祉事業の評価と実績を、条例検討の際に生かすよう提案した。

天神林 美彦

質 若草つどいセンター暖房設備更新事業費に関しては、灯油価格の高騰を考慮し、ガスや電気などの設備導入も選択肢として検討されたのか。

答 比較検討を行った結果、設備価格に大きな差があることや、避難所施設として安定的な燃料設備を優先させた。

松山 哲男

緊急雇用創出推進事業などによる「企業立地動向調査事業」について、企業立地動向に係るアンケート調査の内容とその成果などについてたずねた。また、宮城、福島両県下のかまぼこ工場や牛、豚などの牧場誘致によって、新たな産業興しも考えられるのではと提言した。

木村 純一

質 若年者等キャリアアカウンセリング試行事業費について、どのような理由で一般財源を使って補正を組むのか。

答 地域の高校生等、就職内定率の見通しが厳しい現状にあり、地域で特別に補完しなければならない状況のため、今回地域課題として取り組むこととなった。

渡辺 勉

昨年度の高校新卒者における就職未定者は51人。卒業後は自力で職を探さなければならぬ状況である。キャリアアカウンセラーの配置により、これら未就職の若者や転職希望者の相談、職業紹介、適性アドバイスと事業の成果を広く市民に周知するよう要望した。

石山 正志

若年者等キャリアアカウンセリング試行事業費について、ハローワークで実施している「就職支援事業」との違いについて質問し、専門知識や技術を生かしながら、特に若年層に対して個別相談や就職支援セミナーを実施し、相乗効果を上げるねらいがあると答弁があった。

## 議員研修会が 開催されました

4月の選挙で6名の新人議員が誕生し、市内の公共施設などを6月1日・2日の両日にわたり視察研修を行いました。観光名所・漁港・市民プール・クリンクルセンター！若山浄化センター・市民活動センター・公園・各社会教育施設などを視察し、施設によってはヘルメットを着用するなど、緊張の中にも再発見の連続でしたが、各施設の役割などについてあらためて理解しながら施設見学を行いました。

また、後日、登別市議会基本条例および登別市議会議員政治倫理条例への取り組みに関する研修会に参加し、熱心に耳を傾けました。これらの研修を通し議員としての自覚と責任を持ち、決意を新たにしました。



▲若山浄化センター(し尿処理施設)視察の様子